American Society for
Enology & Viticulture
JAPAN Chapter

【学 会 情 報】

日本ブドウ・ワイン学会西日本地域研究会　第21回研究集会に参加して

川﨑　訓昭

京都大学

Reports on 21st Meeting of Western Division of ASEV Japan Chapter

Noriaki KAWASAKI

KYOTO University, Department of Agriculture

日時：2019年7月6日（土）
場所：京都大学　北部総合教育研究棟　益川ホール

1. Stéphane Fournier 氏（Montpellier SupAgro：モンペリエ農業科学高等教育国際センター）『“Geographical Indications: a tool for supply chain and territorial development?”（邦訳「地理的表示：サプライチェーンと地域農業の発展ツールとなりうるか」）』
2. 戸塚　昭氏（有限会社テクノカルチャー）『ワインの個性とは何か　－《幸せな人》を不幸にする研究－』

報告1　Stéphane Fournier氏

現在の農産物市場において，農業生産者がとるべき戦略として，①グローバル市場での競争に打ち勝つ競争戦略，②自らの農産物の差別化を図る戦略の2つの戦略があるとし，特に後者の差別化による付加価値の向上の方法として，地理的表示制度が活用されていることが報告された．地域における持続可能な農業生産を維持したいという消費者の要求に対応し，現在様々な表示基準やラベルが出現しているが，その中で，地理的表示制度は，生産者自身が満たすべき品質基準を策定すること，生産者組織による管理を行うことが特徴であると指摘された．

また，地理的表示制度の活用により価格プレミアムが得られ，地域農業の持続的な農業生産が可能となるだけでなく，農業生産資源や伝統的な生産ノウハウやコミュニティの維持にも寄与していることが紹介された．最後に，2015年からスタートした我が国の地理的表示制度が更なる発展を遂げるためのポイントとして，フリーライダーが発生するリスクを低減すること，品質管理機関を適切に運用することの2点が必要不可欠であることが指摘された．

報告2　戸塚　昭氏

これまで取り組んできたワインの品質劣化に関する研究報告が行われ，はじめにワインの個性を決定する要因として，①栽培地の自然的・地理的条件に加え産地の歴史や栽培者の哲学を含めたテロワール，②原料ブドウの系統と品種，③外観・風味などのワインのタイプ，④ワインの醸造方法，⑤ボトルの材質や封の形式やエチケットなどの最終製品にする際の特性について説明がなされた．

その上で，強調すべき点として高級ワインと日常ワインの棲み分けとその棲み分けを認識する消費者の意識改革が，今後の日本ワインの発展のために取り組まなければならない課題であるとの指摘がなされた．また，品質が劣化しポテンシャルの低下したワインを個性あるワインと消費者が混同することがないよう，科学者は醸造学に基づき正確な技術情報をわかりやすい表現で消費者に提供する役割を担うことが不可欠であるとの提言がなされた．